

スポーツにおける頸椎・頸髄損傷

寺井 秀富 (てらい ひでとみ)

大阪市立大学医学部 整形外科

頸部は頸椎を中心とした頸部周囲筋の働きにより回旋、屈曲・伸展、左右屈の各方向への運動が可能であり、それらが組み合わさることによって比較的自由度の高い複雑な動きを行うことができる。頸部の外傷は、頸椎の可動域または運動に関与する筋力の限界を超えるような外力が加わった場合に起こりうる。損傷の原因としては交通事故、高所転落による受傷が約80%と最多であるが、飛び込み、スキー、ラグビー、格闘技などスポーツによる受傷が約5%程度あり、そのほとんどが若年者であることは大きな問題である。スポーツ指導者は危険な行為をさせないようプレイヤーの安全意識を高めることが重要である。また、頸椎損傷が疑われる際の対処法についても知っておかなければならない。

頸椎損傷以外でスポーツに関連する頸部の症状に Stinger または Burner と呼ばれる頸部から上肢にかけての激しい疼痛がある。特にラグビーやアメリカンフットボール、レスリング、相撲などのコンタクトスポーツにおいて頭頸部または肩への繰り返される衝撃によって頸部神経根や腕神経叢が刺激され痛みやしびれ、筋力低下を生じる原因となる。症状は一過性のことが多いが、短期間で繰り返す例では慢性化することもあるので注意が必要である。